途上国に住む盲目の子供たちを支援する

NPO法人

ヒカリカナタ基金

ヒカリ届けます 遥かカナタまで

●特集

次なる支援国、ネパールを訪問

新たなる小児眼科医療プロジェクト始動！

ネパール訪問同行者寄稿

【谷口真吾】

今まで竹内先生に随行して色々な経験をさせていただきました。いつでもどこでも感動することばかりです。開発途上国に住む目の見えない子供たちを見て毎回思う事は、もし彼らが私たちが住む日本に生まれていたとしたら全く別の人生があっただろうということです。

日本では日帰り手術で済むような簡単な病気でありながら、経済的理由によって一生目の見えない人生を送るのです。そんな子供たちに、ヒカリカナタ基金の活動に賛同してくださる日本全国の思いやりのある皆様方のおかげで、昨年から現在までの短期間で100人近い子供たちがごく普通の生活を手に入れることができました。素晴らしいことです。

これからも1人でも多くの子供たちに、ご支援いただいた皆様方の思いとともに光を届けていきたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。

【宮本憲男】

人生の中でネパールという国に行くことになろうとは、私自身予想してなかった。だが、ヒカリカナタ基金の目指す支援は、まさに貧困の国に住む子供たちのためにあるのだから、当たり前のことかもしれない。

豊かな日本に住む私には想像できない現実を目の当たりにし、これからの生き方や子育てに多大なる影響を受けた旅となった。竹内先生に感謝です!

【松浦広司】

竹内先生の熱い想いと夢の実現、そして途上国の目の不自由な子供たちの目の前がパ～と明るくなる瞬間に立ち会えたことに本当に感動しました。正にヒカリカナタの名の通りでした。この事を１人でも多くの人に伝えていかなければと感じました。

【伊達元英】

昨年、11月中旬『ネパール眼科医療PG』を知り人の迷惑も顧みず突然参加をさせて頂きました。
20代の頃より海外でのボランティア活動に興味があり、その『夢』を果たせぬまま、いえ忘れてしまいそうになりながら『アラカン』が近づいて参りました。そんな中の参加になりました。

人生の終盤を迎え子育てを終え、仕事も先が見えるようになり、いつしか若い頃の『強い情熱』も冷めつつある頃、70を越えて尚『強い情熱』を持つ竹内昌彦先生と出会い感銘を受けました。そんな竹内先生とヒカリカナタ基金の皆さんの『強い情熱』のお手伝いが出来る事を誇りに思いたいと思います。

【ミラン(Milan raj subedi)　通訳】

ヒカリカナタ基金の皆さまと一緒にネパールでの小児眼科医療プロジェクトに参加する事が出来て本当に感謝しております。今年の12月にもネパールでお会い出来る事を楽しみにお待ちしております。

【中川美登里】

ネパールは発展途上国で生活水準も低く、多くの人は貧困生活です。

私たちが目を背けたくなる様な所でも救われたのは、子供たちの笑顔。カメラを向けるとピースサイン☺視覚障害の子供たちにも一日でも早く、一人でも多く、ヒカリを届け普通に遊び普通の学校に通わせてあげたい!と心から思いました。

このプロジェクトを立ち上げ計画してして下さり支援して頂いたヤマト福祉財団様、多くの寄付、応援して下さいました皆様に感謝いたします♥

◎特集

ネパール訪問記

NPO 法人　ヒカリカナタ基金　理事長　竹内　昌彦

２０１７年１２月、１０人の団体で、ネパールの目の不自由な子供たちにも光をプレゼントするための旅に出かけた。ことのきっかけは２０１６年にさかのぼる。 私が貧しい国の目の不自由な子供たちに治療費を送る活動を行っていることを知って、クロネコのマークでおなじみのヤマト運輸の関連組織であるヤマト福祉財団が「小倉昌男賞」を私にくださった。かつて、ヤマト運輸の社長であり、ヤマト福祉財団を創設されたのが小倉昌男氏である。そして、現在この福祉財団を率いておられる瀬戸理事長は「ネパールの子供たちへの支援なら協力したい」とまで言ってくださった。ヤマト運輸では千人を超えるネパール人が働いている。その人たちへの感謝の気持ちも表したいとのお言葉であった。そして、２０１７年２月には、数十年に渡ってネパールで仕事をしてこられた瀬戸理事長の友人である菅沼氏とお会いした。彼がネパールで目の不自由な子供たちを見つけ手術をしてくださる眼科のお医者さんたちと連絡を付けてくださることになった。こうしてネパール訪問の旅が実施されることになったが、財団の支援はそれだけではなかった。この１０人の旅行に対し、多額の経費も負担してくださったのである。

旅には福祉財団から瀬戸理事長、事務局の渡辺氏、カメラワークの原さんといわれる女性が参加された。岡山からは私の他に「ヒカリカナタ基金」のメンバー６人が参加した。

２０１７年１２月７日、総勢１０人は８時３０分の全日空機でバンコクに向かった。６時間を機内で過ごし空港に降り立って驚いた。東京は真冬だったのにバンコクは３０度を超える真夏だ。部厚いコートがうっとうしかった。

翌日はバンコクからネパールの首都であるカトマンズに向かった。約３時間の旅であるが、カトマンズの空港は込み合っていて、着陸までに１時間も上空で待たされた。

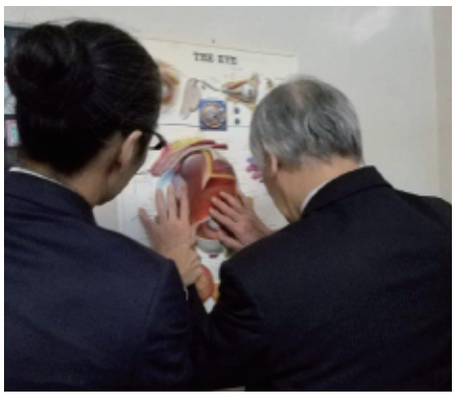
１２月９日は子供たちの目の検査と治療を行うダディン郡の村に出かけた。カトマンズから車で１時間半。舗装された部分もあるというがとんでもない話で、日本の昔でもこんな凸凹道はなかっただろうという悪路を四駆の車で走るから、その揺れ方は半端ではない。

うっかりすると舌を噛んだり腰を捻りそうになるような道だった。現地では二つの小学校と鉄筋コンクリート作りの小さな診療所を見学した。この診療所で目の検査と治療をするという。４０歳代のサビナ・シュレスターさんといわれる眼科の女医さんが私たちを迎えてくださった。この方が私たちの活動を実行してく

ださる。上品で優しそうな方で温かくて柔らかい手としっかり握手した。学校の中を見て回った。私の子供のときに学んだような古い教室にパソコンなどの近代教具などが並んでいる。モンゴルやキルギスのような発展途上国にも文明の最高水準のパソコンやスマホはある。一番日本との違いを感じるのはトイレだ。日本もつい最近まで公衆便所といえば汚いものの代名詞のようにいわれたものだ。男性諸君は道端でたちしょんをした。久しぶりの体験で「風下に向かってするんだぞ」と先輩風を吹かせた。

１２月１０日はカトマンズ市内の眼科専門の病院に行った。眼科だけでこれほどの立派な病院は日本でもないと思えた。乾季になると土埃がひどいから、目の病気が多いのかもしれない。サビナ医師がここに務めておられる。一通り見て回ってから、病院の中の一室に通された。サビナ医師の部屋である。ここでこれからの活動について、「ヒカリカナタ基金」と「ヤマト福祉財団」とサビナさんたちのボランティア組織「プロフェッショナル　サービス　サポート　ネパール（PSSN）」との合意文書にサインする。私の代わりに息子の直人がペンをとったが、日頃からこんなことに慣れていない息子はさぞかし緊張したことだろう。夜はＰＳＳＮのメンバー１０人ほどと私たちとで一つのテーブルを囲んだ。言葉はほとんど通じないのに、雰囲気は和気あいあいとして楽しい。サビナさんのハンサムでかっこいいご主人と１２歳になる一粒種の息子さんも加わって、その場の空気を和ませてくれた。

１２月１１日はネパールでもっとも有名なリゾート地であるポカラに向かった。あの凸凹道を行くのかと思ったら飛行機で飛ぶというのでほっとした。約１時間のフライトで到着。空気はさわやかで日本の１０月ぐらいの気温だ。ダム湖があり、これを船で横切ってホテルに入る。船を動かすのはオールでもスクリューでもない。湖を横切って渡してあるロープを船に乗ってい



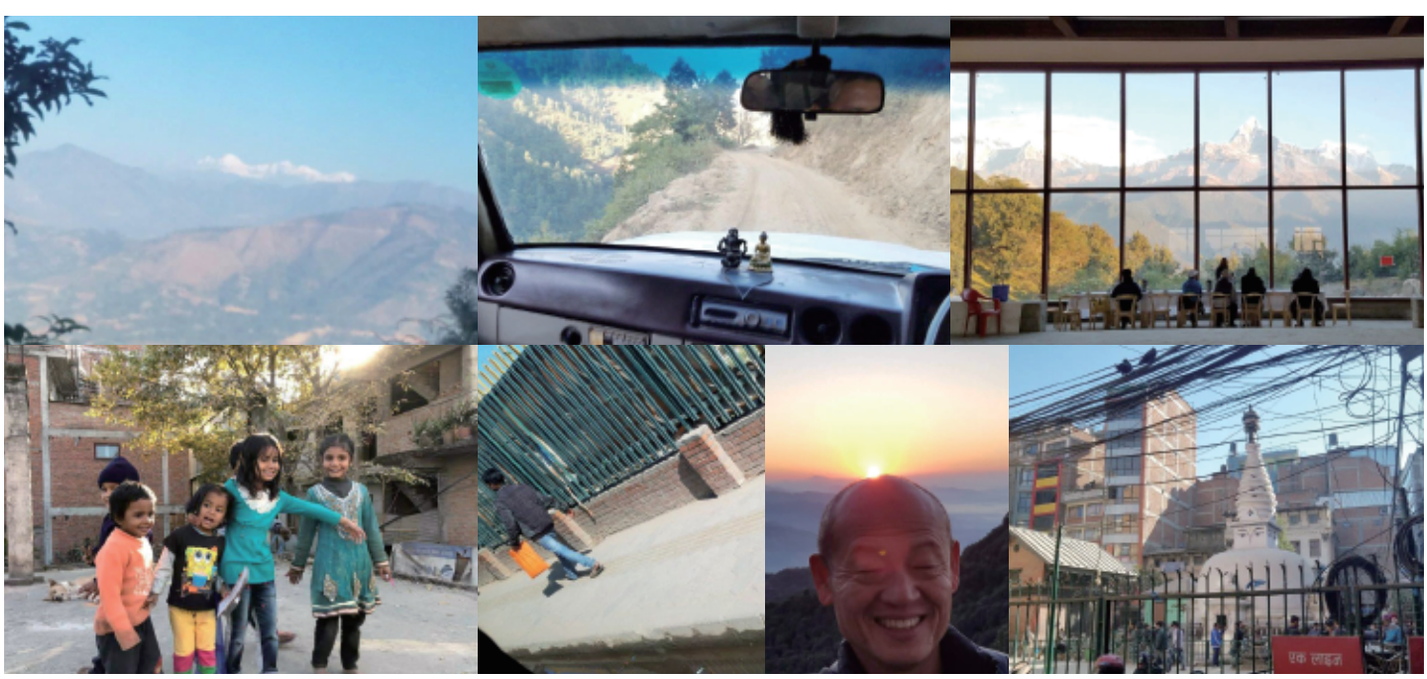
る人間が手で引っ張って船を進めるという。これほどのエコはない。ホテルには広くて美しい庭があり、ここでネパールのご馳走をたらふくいただいた。ところがその夜、私は腹痛で目を覚ました。下痢である。疲れたときによく起こるので、「またか･･･?」と思ったが、いつもなら２時間ほどで治まるものがいっこうに回復しない。明け方ヒマラヤ山脈を展望する高台に登ることになっていたが、私はあきらめてホテルで一人留守番をした。朝食をとらずに岡山の主治医である戸川先生に電話をした。事情を話し、同行してくださっている薬剤師の伊達さんと戸川先生と直接話をしていただいた。彼はたたくさんの市販薬を持ってきてくださっている。その中の薬を飲んだら下痢はぴたりと止まった。ネパールに来たらたいていの日本人は経験することらしい。

１２月１２日は再びカトマンズに戻り、日本大使公邸を訪問した。岡山1区選出の逢沢代議士の声掛けによって実現したものだ。私たちのこれからのネパールでの活動を支えていただかなければならない。建物は昔の宮殿を買い取ったものですばらしい。小川大使も快く私たちを迎えてくださり、日本でも食べられないような純粋の和食で歓迎してくださった。

１３日は往路と逆でバンコクに飛び、翌日羽田を経由して、夜遅くに岡山まで帰りつくことができた。

旅の目的であるＰＳＳＮとの契約もできたし、ネパールの関係者たちともつながりをもつことができて１００点の旅となった。体調を崩したのは私一人で、他の人たちは無事に過ごすことができた。私の次に年長の瀬戸理事長はホテルの庭でジョギングをされるなど元気いっぱい。体力の差をひしひしと感じる旅となった。７２歳の全盲の私にはいささかこたえる旅行であったが、これだけのことを私の個人的な力ではとても実現することはできない。

協力してくださった人たちの温かいお心と底力に感謝感謝の旅であった。



活動報告（平成29年度）

平成29年5月15日 ● ヒカリカナタ基金設立総会
平成29年9月25日 ● 第1回　NPO法人　ヒカリカナタ基金　理事会
平成29年10月1日 ● NPO法人　ヒカリカナタ基金設立記念報告会
平成29年11月15日 ● キルギスへの手術費送金
平成29年11月17日 ● ソロプチミスト日本財団より千嘉代子賞受賞　竹内昌彦理事長
平成29年12月6日 ● 公益財団法人ヤマト福祉財団主催　第18回小倉昌男賞贈呈式・懇親会への出席
平成29年12月7日～13日 ● 公益財団法人ヤマト福祉財団との共同事業として
ネパール小児眼科医療プロジェクト調印、視察のために訪国
平成30年1月14日 ● NPO法人　海外たすけあいロービジョンネットワーク解散による残余財産の受け入れ
平成30年2月8日 ● 第2回　NPO法人　ヒカリカナタ基金　理事会
平成30年3月14日 ● 第3回　NPO法人　ヒカリカナタ基金　理事会
平成30年3月18日 ● 点字ブロックの日制定8周年啓発活動の実施
平成30年3月18日 ● 点字ブロックの日制定8周年式典及びヒカリカナタ基金チャリティーチェロコンサート

賛助会員募集中！

【年会費】個人の方（1口）3,000円
法人の方（1口）5,000円

何口からでも結構です。賛助会員の方からいただいた年会費が集まって、子供達の目の手術代となります。皆様のあたたかい思いやりをひとつに結集して、できるだけ大きな支援を遠い国の子供達に送り届けましょう！ご入会くださる方は、下記のいずれかの窓口から年会費をお振込ください。後日、メールか郵送で活動報告の広報誌をお届けします。来年以降の継続、退会は自由です。
※年会費以外に、通常の寄付も随時受け付けておりますので、同じく下記窓口からよろしくお願いします。

銀行 金融機関

■ ゆうちょ銀行もしくは郵便局からの場合
ゆうちょ銀行
振替口座
口座記号番号：01380-4-106091
口座名義：特定非営利活動法人 ヒカリカナタ基金

■ 他の銀行、金融機関からの場合
銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード9900）
店　名：一三九（イチサンキユウ）（店番139）
預金種目：当座
口座番号：0106091
口座名義：特定非営利活動法人 ヒカリカナタ基金

インターネット

■「ヒカリカナタ基金」ホームページから。 www.hikarikanata.com

NPO法人
ヒカリカナタ基金

◎事務局
〒700-0925 岡山県岡山市北区大元上町12-11
Tel：086-242-3535 / Fax：086-242-3311
E-Mail：npo@hikarikanata.com

www.hikarikanata.com
ヒカリカナタ基金

竹内昌彦「ヒカリカナタ基金」
www.facebook.com/hikarikanatakikin

竹内昌彦
twitter.com/masahikotakebot

<次号予告>次なる支援国ミャンマー